

## 平成25年 第10回 教育委員会定例会議事録

招集日時 平成25年9月26日(木曜日) 午後4時30分開会/午後6時5分閉会  
招集場所 加賀市山中温泉支所3階 会議室  
出席委員 上田政憲、石橋雅之、酒谷百合子、畑中直子、旭直樹  
会議列席者 掛山事務局長、網谷次長兼学校指導課長、中矢次長兼九谷焼美術館副館長、梶谷教育庶務課長、西出生涯学習課長、中野スポーツ課長補佐、田嶋文化課長、矢嶋図書館長、柏田市政図書室長、米屋教育庶務課長補佐

- 上田委員長 平成25年第10回教育委員会定例会開会宣言  
挨拶  
議案第24号について、説明お願いいたします。
- 議案第24号 加賀市教育及び文化振興事業補助金交付要綱の一部  
改正について  
田嶋課長 資料に基づき説明
- 上田委員長 今ご説明がありましたように、補助金の対象範囲を明確にするということ、それから補助金の額について、これまで定額としか書いてないのでよくわからなかったのですが、そこも明確にした。こんなことですね。これにつきまして、委員の方から何かご質問はありませんか。はい、石橋委員。
- 石橋委員 今ほどの中で、管理事業という言葉、これは「ただし、50,000円を上限とする」ということになっておりますが、管理事業という言葉の意味・定義をちょっと教えていただけませんか。
- 田嶋課長 これは指定文化財の中でも主に史跡、天然記念物で、その維持管理にかかる、例えば史跡ですと草刈ですとか、掃除ですとかそういうもの。それから天然記念物ですと、例えば篠原の金明地区とかですと毎年地元の保存会の方で除草ですとか、あるいは、肥料をやったりというような経費がかかっておりますので、それについての補助。管理をそれぞれの団体に、保存会とか地区の町内会とかにお願いをしております、そちらの方を管理団体というふうに決めまして、そちらに管理をお願いしているというようなものでございます。
- 石橋委員 わかりました。自分なりにちょっと解釈して言いたいと思います。そうすると保護と管理の違いというのは、保護の場合は文化財に関して何らかの傷があった場合の補修・修繕、そういったものを含めて保護とし、一般・通常・日常的な周辺環境維持レベルが管理というふうに考えればいいですね。
- 田嶋課長 はい。その通りでございます。
- 石橋委員 ありがとうございます。
- 上田委員長 あと何かありませんか。ございませんね。では、加賀市教育及び文化振興事

業補助金交付要綱の一部改正についてご承認いただける方は挙手をお願いいたします。

全委員 全員挙手

上田委員長 ありがとうございます。では、議案第 25 号について、西出課長お願いします。

■ 議案第 25 号 加賀市公民館長の任命について  
西出課長 資料に基づき説明

上田委員長 ありがとうございます。この件につきまして、どうでしょうか。特に質問はございませんね。では、ご承認される方は挙手をお願いいたします。

全委員 全員挙手

上田委員長 ありがとうございます。

旭教育長 ちょっと一つだけ。これは向こうが出してきたものですので何も言えませんが、8 ページの経歴書ですね、職歴だけになっていますけど、これもうちょっと書きようがあるんじゃないですか。これはあまりにも略すぎて。平井郁雄さんは非常に立派な方ですし、誰も文句はないと思いますが、この動橋公民館は、平井郁雄さんが公民館長のときに文部科学大臣表彰までいっているはずなんです。そういうのを書かないといけない。まあ、いろんな諸般の事情があって、2 回目の公民館長をしていただくんですけども、その辺、また書いた人に言っておいてください。

西出課長 はい。

上田委員長 経歴を見ると公民館活動に関しては大変素晴らしい経歴をお持ちですので、特に問題はないと思います。今、教育長さんのお話もありましたように、もう少し詳しく書いていただければと思います。それでは、審議事項が終わりまして、報告案件に入りたいと思います。報告第 30 号について、田嶋課長お願いします。

■ 報告第 30 号 加賀市九谷磁器窯跡整備委員会設置要領の一部を改正する要領について  
田嶋課長 資料に基づき説明

上田委員長 前回、石橋委員からご指摘があった部分について、一部改正したということですね。早速対応していただいて大変ありがとうございます。この件はこれでもよろしいでしょうか。では、報告第 31 号について説明をお願いします。

■ 報告第 31 号 平成 24 年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検の及び評価報告書について  
梶谷課長 資料に基づき説明

上田委員長 今、梶谷課長からご説明がありましたけども、田邊先生のコメントというのは、今回はもちろん来年度以降ということですか。

梶谷課長 そうですね。基本計画が24年度途中なものであるということで、来年は教育振興基本計画に柱立てを変えてくださいということです。だから来年は様式がちょっと変わります。事業のくくりとかが変わってくるかもしれないです。

旭教育長 田邊先生からはいい指摘をしていただいたもので、この形式で作っていったら、これで2年か3年経つんですけど。

掛山局長 3年ですね。

旭教育長 これがやっぱり形骸化している傾向にあるので、いい指摘というのは各課ごとに予算全体がまずわかって、それをどのように使ったかということが課長だけではなくて担当までが浸透してわかるようにして、課そのものがどのような目的の下に動いているのか、そして自分はその課の中でどういう位置付けで働いているのか、これを明確にしないとお役所仕事になっていく可能性がある。これをできたら公表していければと思います。そういう点では、教育委員会全体としては教育振興基本計画ができましたから、教育庶務課長に全体像は作ってもらいますが、各課の中で今一度これの作り方を、また局内会議で来年に向けてやっていかないといけないというつもりでいます。

上田委員長 委員の方から何かございませんか。人間というのは慣れが怖いですからね。そういう意味ではこの田邊先生のご意見を上手く活用できればというふうに思います。

旭教育長 これは余談かもしれませんが、田邊先生はこの度、金沢市の教育委員になられました。

上田委員長 ということは、今度からお願いできないのですか。

旭教育長 それはお願いできないと思います。

掛山局長 ご無理なら田邊先生からどなたかご紹介いただいた先生に了解していただきます。

酒谷委員 新聞に載っていました。見ました。

掛山局長 今日の新聞では「10月3日に委員長就任の予定」と載っておりました。

旭教育長 今日の新聞ですか。

掛山局長 そうです。

上田委員長 では、それくらいでよろしいでしょうか。次にまいります。報告第32号について網谷次長、お願いします。

■ 報告第32号 平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について  
網谷次長 資料に基づき説明

上田委員長 ただ今、網谷次長から今年度の厳しい状況についてご説明をいただきましたが、いかがでしょうか。

旭教育長 はい。細かい分析はあとで見てくださいたいと思います。これは加賀市独特の

長い文化があると私は思っています。私は金沢地区でも金沢西高校の教頭をしておったんですが、金沢市内の全中学校を回らせてもらいましたし、その Territories が白山市からかほく市、津幡町まで、だいたいその辺の中学校は全部回りました。それから小松市でも小松高校へ勤務させていただいて、中学校ほとんど回らせていただきました。当然、加賀市は大聖寺高校におりましたから、そうするとそこで感ずることは、金沢市とか白山市とか、特にかほく市、津幡町辺りなんです。加賀市の中学校とどこが違うかといったら、解放的なんです。要するに部活動とか、いろんな学校訪問しても学校が非常に明るくて開放的なんです。加賀市の中学校に行って親に聞いたりすると、「お父さん、お母さん来ん」といって。」要するに部活動一つにしても親はものすごい気になって、運動場の後ろから隠れて応援しているんですね。要するに子どもに怒られるから。これは絶対によくない。やっぱり開放的にならないと。それは今に始まったことかというところではなくて、畑中さんらがおられる時か、私達が中学校の時かわかりませんが、そういう文化がずっと出ているんですね。子どもは中学校になると急に親やら地域の人を拒否する。そして親も遠慮する。ここを一体になるようにどう作っていくかというのが、私は加賀市の中学校の在り方だと。要するに開放的にさえすれば先生方も閉鎖的にならないし、先生方と子どもだけの文化、先生は子どもに遠慮したりする悪循環になっているんだと思うんです。もっと一緒に作り上げていくという雰囲気を中学校に作っていかないと弱いと思う。部活動が一番いい例なんです。もう津幡町やかほく市なんかに行くと、日曜日に見に行くと親が「お父さんとお母さん楽しむから」と言って、楽なかたちで応援しているのです。加賀市の先生方が大変なのは、引率し、指導もし、また何か皆で子どもをつくりあげていくという雰囲気も作らないといけな。親は子どもと学校を信じて応援していくと、子どもも学校も元気になると思います。

上田委員長  
旭教育長

そうですか。保護者が見に行っている数が少ない。

私の感覚ですけど。私の知っている限りでは閉鎖的ですね。それはなぜかといったら、運動会一つ見に行ってもおそらく中学くらいになると保護者があまり行かないのだと思いますけど、そんなことはないと思うんです。やり方で、我々の時はスタンスから厳しい運動会で、親が見に来てよかったわけですが、今、親は隠れて見ているんですね。小学校までとは全然文化が違うんです。じゃあ加賀市だけか、他もそうかなと思うと違いますよ。他は開放的ですよ。遠慮なく行っています。この辺が中学校の先生方もそれに気付かないと、中学校がこんなんだと思うといけな。そこの意識改革だと思っているんです。この辺はまた学校指導課と、だから学力を上げようと思ったら、いつも言っているんですが、先生方も誤解しているんです。目先のペーパーテストばかりさせてもいけな。学力を上げるためには生活指導から、あるいは食生活から運動から全てのものを巻き込みながら学力というものは上げていかないといけな。それを昔のああいう受験偏重主義的な時代のことばかり思っているんですよ。

今はもう総合力で学力を上げていかないと。だから生徒指導を授業の中で取り組みながらやる気を起こさせる。今、小学校はそういうやり方でいっているわけで、ところが勉強したくない子に勉強しなさいと言ってもなかなかしない。だから外堀を埋めるようにして持っていく方法を考えないと、というのが今の我々教育委員会の学校指導課側の考え方です。いろんな意見があるかと思いません。

上田委員長  
網谷次長

質問でもご意見でもよろしいかと思いますが、いかがですか。

一つ付け加えてもよろしいですか。今ほど中学校に課題が多いことを教育長からもお話がございましたが、全中学校を回らせていただきまして、この結果を受けてすぐに対応はしたんですが、やはり大事なのはその後どうかということでもあります。実は担当の山下指導主事と計画をしまして、10月8日火曜日には6中学校の校長、そして教務主任、そして学力向上担当者の全員を一同に集めました。その会では、それぞれの学校の学力向上の経過について発表させて、そしていい取り組みをしているところはどんどん真似してもらおうとか、またいい刺激といいますか、ライバル意識をしっかりと持ってもらった上で、この前の学び支援訪問を受けて、その後どうかという検証をしてみたいなど、今計画をしております。また12月になりますと県からの評価問題がありますので、そこら辺りでその様子を見ていきたいというふうに思っております。現在の2年生が来年受けるわけですけども、どうなのか各学校の校長に少し聞いておきますと、やはり学校によっては今年よりも大変なんだということがまだありました。そういう意味ではなかなか前途多難なんですけども、事務局側としましてもそういうことにめげないで、新たな施策を基にがんばっていきたいと思っております。以上です。

旭教育長

静岡県の公表の動きがありますが、この件については各学校真摯に受け止めていつ公表されてもいいんだと、そこは後ろからというのではなくて、平均点以上の学校名じゃなくて校長名と言っていますが、良い悪いは別として税金でやっていることですから、オンブズマンじゃありあませんけども、情報公開を求められたら筋上は公表しないといけないんです。ただ、教育的配慮、無駄な、何て言いますか下手な競争意識、勘ぐられるようなことをやるといけないので、これは公表しないように私も市長にお願いしております。現市長は公表するのが当たり前だろうと絶えずおっしゃっております。ただし、いろんなことがありますので、お願いして公表しないようにしていますけども、やっぱり中学校側は意識改革をしないと甘いところが教員にもあると思います。やはり責任は自分が親になったら、自分の学校の子どもの平均点がこんなに悪いのかとショックですよ。生徒指導も大事ですけども、じゃあ子どもはどうしたら前向きにやる気になるのか。そこを真摯に考えて、学力はもちろんなんですけども、学力を伸ばすための方法、こういうふうな取り組み方をしないと、生徒指導は生徒指導、部活は部活、それで忙しいんだと言われたら指導上の問題があると思います。だからそういう点で教員の意識改革をしないといけない。授業が真

剣勝負になっていかないと。見ていると中学校はそこがはっきり言って甘いですよ。寝ている子がいても注意しない。静かにさえしていればいいというのは、はっきり言ってだめですよ。人間としてだめ。それだったらちょっと顔を洗ってらっしゃいとか、あるいはあとでフォローするとか、ほったらかしではいつまで経ってもよくなる。だから私は教育委員会としても本気になって、ここは中学校の先生方と対峙していかないといけない。だから教育委員の皆さんにお願いしないといけない。いけないものはいけないとはっきり学校に指摘してほしいと思うんです。学校訪問に行くときに悪いことはないですけども、こうやって寝ている姿はあまりいい気しないと思うんです。覆い隠して流してはいけません。やっぱりここは戦いだと思うんです。先生も辛いけども我々も辛い。子どもも辛い。親も辛い。だけど何とかしなければいけないというのが戦いだと思うんです。戦いというのはあまりいい表現じゃないんですけども、困難から逃げてはいけません。

上田委員長 確かに計画訪問に行ったときの小学校と中学校の差は歴然としていましたからね。

旭教育長 それで小学校でも成績が悪かったところは皆これです。もうはっきり言って人間の成せる技なんです。機械じゃないから勉強さえすれば成績が伸びる、とんでもない話です。人としてやる気になる人間にさえつくれば伸びるんです。そこをやっぱり見逃したら教育になっていかないとと思うんです。

上田委員長 ちょっとだけ教えて下さい。特に中学校ですけれど、中学校3年生、これは4月の段階ですね。国語Aと国語Bで議論と活用だと思うんですが、Aが悪くてBが良いというのは、これはどんなふうに。

網谷次長 はい。基礎基本の部分と活用の部分で言うと、活用は応用力というふうに思いがちかもしれないんですが、応用の部分とそれから出題の仕方によっては全体から読み取って表現する部分と違いますか、そういう様々なものがあるんです。基礎基本知識として持っていれば、そういったことが活用力として使える部分とそうでない部分があって、一様に基礎基本ができていれば活用の方もいいんじゃないかということにはならない。出題の内容によって変わってくるんだと思います。

上田委員長 すみません、難しい質問でした。これは義務教育の最終学年ですから、やっぱりそれなりの終了時点での力を付けて送り出すというのが、中学校も含めて我々の責任だと思いますから、何とかしていただかないといけないというふうに思います。

旭教育長 一言。今、網谷次長が説明したB問題が、ある程度いいということは発想力とか想像力とか潜在力があるんです。頭が悪いわけではないんです。Aが悪いということは不真面目なんです。

上田委員長 なるほど。

旭教育長 だからそういう意味で勉強不足なんです。訓練不足なんです。静岡県でA問題が全国で最下位だった。だからあの知事はこれは教師の怠慢だろう、教えればで

きるだろうと。B問題が悪い場合は考えなければいけない。ところが加賀市は逆です。だから問題なんです。

上田委員長

大変いいご指摘だと思います。わかりました。他に何かございませんか。次にまいりたいと思います。市議会の会期予定等についてですので、報告第33号から35号までまとめて説明お願いいたします。

- 報告第 33 号 平成 25 年 4 回加賀市議会定例会（9 月）について
  - 報告第 34 号 平成 25 年 5 回加賀市議会臨時会（11 月）会期予定について
  - 報告第 35 号 平成 25 年 6 回加賀市議会定例会（12 月）会期予定について
- 梶谷課長 資料に基づき説明

上田委員長

何かございますか。では、報告第 36 号について、田嶋課長。

- 報告第 36 号 第 23 回芭蕉祭加賀山中温泉全国俳句大会の開催結果について
- 田嶋課長 資料に基づき説明

上田委員長  
田嶋課長  
旭教育長

参加者数は例年に比べていかがですか。  
実を言いますと、ちょっと減っています。  
事務局を代表して。これは山中温泉支所、まさにここですね。ここを中心に旧山中町の時代から、どっちかという町おこしの状態でやっていたんです。合併後は支所中心にやっていたいたんですが、この支所も合併の約束で 10 年間ですね。これでもう 8 年目ですが、そういうことで徐々に移行しないといけないということで、お手伝い的なものから徐々に今年は教育委員会文化課を中心にやっているんですが、なかなか難しいのが現状です。ほとんど行政主導になってしまっていますから、ただ、大会長が市長になっていただいておりますので、やっぱり我々がしなければいけないのかなと思っておりますが、やり方等についてはまだまだ課題が多い。かといって当日、吟行句会をしないと人は集まりませんし、かたちにもなりませんので、もうちょっとやるのであれば人を集める。学校の児童・生徒を巻き込んでいて良いものだと思うんです。やり方等には結構手間隙がかかる行事なので、やり方としてどうするのがいいか、課題を残しているのが現状です。そう簡単にはいっていない。一年間通して来年どう持っていくかというのが課題ですね。終わってほっとはしているんですけども、また来年重い課題がある。ここまで持っていくのに大変なんです。各学校から俳句を集め、それを精査していかないといけないんですね。吟行句会をしないと人が集まらない。だから市役所の方々はこういう部屋に一日こもる。だって午前中見て回って集めて、

昼の3時か4時までには結果を出して表彰しないといけないから、これは大変な事業なんですすね。他の俳句、いろんな私的な萩聖樹さんの「はつしほ句会」や、深田久弥の「九山忌俳句大会」とか、それは単独でみんな好きな人だけがやっていますから、本来私はそちらが主だと思うんです。行政がどこまで入っていいのかというのが課題なんです。

上田委員長 学校を巻き込んでいるから尚更ですね。

旭教育長 そうなんです。そこをどうするかです。

酒谷委員 ちょっといいですか。当日の吟行句会には県外からだいぶ来てらっしゃいますか。

田嶋課長 具体的な数は今出せませんが、多分ですが参加者の3割程度が県外の方で、県内でも市外の方も結構いらっしゃいますので、市内が5割ぐらいか。

西出課長 いや、そんなにいかないです。3割くらいだと思います。

田嶋課長 県内が4~5割くらいですかね。県外は2~3割くらいかな。

西出課長 いや、1割くらいだと思います。

田嶋課長 多分そんな程度だと思います。それから投句の数がピークより下がってきているのは、実は全国的にこういう俳句の全国大会というのが増えてきているんです。今まではこちらの方に俳句を送ってくれた方が、自分の近場であるとそちらの方に出して、こっちはもういいやとなったということもあるんじゃないかと思います。

酒谷委員 すみません。当日の吟行句会に随分前に出たことがあるんですけども、確か当日は申し込みをしなくても出られたんじゃないですか。今もそうですか。

田嶋課長 その時の参加費を払っていただいて。

酒谷委員 払えば出られるんですね。当日の句会は何人出るかというのは。

田嶋課長 当日じゃないとわからない。

酒谷委員 わからないんですよ。それも大変なんじゃないかなと前に思ったんですけども。

田嶋課長 結構、天候にも左右されると思います。

酒谷委員 それも大変かなと前から思っていたんですけども、例えば吟行に行く時バスを出さないといけないという時に人数が多かったり少なかったり、それが読めないし。

上田委員長 そうですね。よくお聞きするといろんな大変なことがあるということがわかりました。では、次にまいります。報告第37号についてお願いします。

■ 報告第37号 第7回雪のデザイン賞入選作品・表彰式について  
田嶋課長 資料に基づき説明

上田委員長 雪のデザイン賞についていかがですか。

石橋委員 応募数はどれだけでしたっけ。

田嶋課長 今年度の応募数は今こちらの手元にないんですが、2年に一度行っておるんですが、前回と比べますと少し減っております。

上田委員長 受付番号192とありますが。

掛山局長 205ですね。

旭教育長 こういう全国から応募があつて、加賀市の方が入選している。奨励賞に松本由衣さんと佳作の針谷崇之さん、それから入選の浅田明彦さん、それぞれ加賀市の何町かわからないのですか。

田嶋課長 もちろんわかっているんですが、出しておりません。

旭教育長 やっぱり若手作家ならば育てないといけないでしょう。声も掛けてやっけないといけない。東谷に住んでもらえますかね。

田嶋課長 どうでしょう。

石橋委員 針谷さんは塚谷、浅田さんは菅谷で、漆器屋の息子さんですね。

旭教育長 山中の方ですか。松本さんはどこかわからない。

石橋委員 松本さんは私知らないんですね。

旭教育長 まあ、いいんです。

上田委員長 市内の方の応募というのはどうですか。

田嶋課長 市内の方は全体から見ると元々そんなに多くはない。やっぱり漆器関係の方と丸谷焼の関係の方がほとんどでございます。

上田委員長 はい、わかりました。

酒谷委員 入賞者の作品展とかは。

田嶋課長 それは表彰式の日から作品展を開催しております。

旭教育長 11月2日以降ってことですね。

田嶋課長 はい。

石橋委員 2月までですか。長かったような気がしたんですが。

田嶋課長 ごめんなさい。最終日まではまだわかりません。

旭教育長 案内ができたらお願いします。

上田委員長 では、その他にまいりたいと思います。これも連絡事項が多いんですが、その他(1)についてお願いします。

■ その他(1) 石川縣市町教育委員会連合会研究大会について  
梶谷課長 資料に基づき説明

上田委員長 A、B、Cとありますがどうしましょう。ご希望は。

旭教育長 社会教育施設の効用で言ったら体育施設とか色々ありますし、他市町の状況を聞くのもいいですね。

掛山局長 事務局で聞けるところもありますから。

梶谷課長 一応事務局は今のところ局長と私は必ず、他は状況によってということで予定しております。

旭教育長 ここで決めてしまわないといけないのですか。

梶谷課長 報告があるのですが、決めにくいのであれば後日でも構いません。少し考えてご連絡いただければと思います。

上田委員長 では後ほどということ。

石橋委員 報告はいつまでですか。あまり日がないでしょう。

梶谷課長 本当は今月中くらいなんです。

上田委員長 では今日中に決めましょう。

石橋委員 当日のスケジュールは。

梶谷課長 また昼食を取ってからかほかくです。

掛山局長 高速で2時間見ておけば十分です。お昼を取らないといけないので。

石橋委員 10時半までに出た方がいいんですね。

掛山局長 10時半出発で市役所に集合していただいて。

梶谷課長 乗り合わせでということをお願いします。

石橋委員 網谷さん、山中小学校訪問となっているのでこれは欠席して下さい。

網谷次長 わかりました。対応しておきます。

旭教育長 山中小学校は前もできなかったのではないですか。

網谷次長 厳しく言うておきます。

上田委員長 それでは、またスケジュールその他お願いすることになると思います。よろしくをお願いします。一応10時半出発ですね。その他(2)について、お願いします。

■ その他(2) 加南地区教育委員会連絡協議会研究大会について  
梶谷課長 資料に基づき説明

旭教育長 これは地元開催ですので、すみませんが、万障お繰り合わせの上お願いします。畑中さんは大丈夫ですか。

畑中委員 この日は金沢現代会議というのに行きたかったんですけど諦めました。

旭教育長 無理には言いませんけど、もしも時間があればここはご出席下さい。

梶谷課長 地元講師もおりますので。

旭教育長 中矢さんに講演してもらいます。

上田委員長 我々の仕事はないんですか。

旭教育長 接待です。接待という言い方も変なんですけど、南加賀地区の他の教育委員が集まりますので。川北、小松、能美、加賀市でしょ。うちの番ですからウェルカムしないとイケません。

上田委員長 他には。

梶谷課長 あとは事務局が仕切りということで持ち回りです。

上田委員長 事務局が大変なんですね。申し訳ないね。

旭教育長 情報交換会の時に委員長さんのご挨拶だけはお願いします。

上田委員長 それはわかりました。

梶谷課長 出欠確認と座席表を作ったり、細々した物とかがありますが。

旭教育長 これは事務局がしますので。  
上田委員長 すみませんが、よろしく願います。その他(3)について願います。

■ その他(3) 「石川県教育委員との意見交換会」の中止について  
梶谷課長 資料に基づき説明

上田委員長 今年はもうないということですか。  
網谷次長 今年度はないと聞いております。  
旭教育長 諸般の政治情勢がありまして、来年度はあると思います。  
石橋委員 これで2年連続つぶれたんじゃないですか。  
梶谷課長 去年は元々なくて、市町持ち回りというか順番に回っているみたいなので。  
旭教育長 もう珠洲はやったみたいですね。両端からやろうということかもしれません。  
酒谷委員 山代小学校と山代中学校と聞いたし、どきっとしました。  
網谷次長 最初はその予定だったんですが。  
酒谷委員 そう言うておられましたね。  
網谷次長 それが錦城小学校と錦城中学校に変わりました。というのは、教育事務所の方やら県の教職員の方が東和と山代に何回か行っているんです。それで実情をよく知っているの、変えたいということです。  
上田委員長 それでは、その他(4)について願います。

■ その他(4) 敷地物狂について  
田嶋課長 資料に基づき説明

上田委員長 何か聞いておきたいことはございませんか。  
石橋委員 1時開場でしたね。  
田嶋課長 はい。  
石橋委員 スタートは2時10分からお話ということになっていますが、早めに行っておかないとやっぱり席がなくなるといふことはないですか。  
田嶋課長 こちらの裏面を見ていただきますと、1時50分までに入場して下さいと、50分までに入場されない場合、その席が空いていたら、あとからいらっしゃったお客さんをそこにに入れてしまいますというふうに書いてございます。それと2時を過ぎますと、正面の神門が閉まってしまいます。入れなくなりますので、できるだけ時間内に席に着いていただければと思います。  
旭教育長 9月29日は一年前ぐらい前からこの日にすると決めて準備してきたもので、仮設舞台が作られて一日限りなんです。それでお金が結構かかるということと、当日残念なことにこれはあとで決まったことですが、選挙告示の日なんです。そうすると選挙演説が拡声器で菅生石部神社の周りを回られて、能をしている最中にもしも聞こえたりすると、ちょっと違和感があります。でも止められないんだそうです。願いはしているんですけど、それがどう

なるのかちょっと不安なんです、それだけなんです。あと、ここ3年間かけて加賀市の伝統文化ということで、能についての小学校向け伝統文化事業として、先生方も指導者になってくれとあって、鼓やら囃子やらいろんなことをやってきたんですが、なるべく能というのは感ずるもので、難しいことを考えなくていいんですけれども、やはり一般的な考えで言うと難しいです。まだ歌舞伎の方がわかりやすい。能は一步引いてしまうんですね。だけど引くだけけれども知れば知るほど深みのある日本の伝統芸能ですので、知るためにはやっぱりある程度勉強しないとだめなんです。私もわからないなりに勉強していったら面白かったです。それをわかって見るとだいぶ違うんで、なかなかこの辺難しいですけど、勉強しろとは言いませんけども、田嶋課長が言うには全国的に能ブームなんだそうです。だから2020年に東京オリンピックが決まりましたけど、より広いグローバル化社会であればあるほど、外国の方がいっぱい来れば来るほど、日本の文化について聞かれます。世界遺産ですから。だけど能を語る、あるいは能を喋れる日本人はほとんどいないということに気付いて、全国的には宝生流とか観世流とか金春流とか色々あるんです。我々加賀市は非常にありがたいことに大聖寺藩をいただいていたから、能文化が残っているんですね。これを山中の町民にそれをやれって言っても難しいかもしれませんが、やっぱり大聖寺を中心に郷土が残した、山中では芭蕉が誇りであると同時に大聖寺は能文化を、小松は商業の町ですから歌舞伎でいいですよ。大聖寺は武家の文化ですから、やっぱり能というものを今一度見直して、先人が残した大事な文化ですので、少しでも感じればいいですけど、わかって感じるようになっていただければいいんじゃないかなと。

酒谷委員  
旭教育長  
酒谷委員  
旭教育長

加賀市内で子どもがやっている能がありますね。

錦城能楽会です。

小学生がやっているんですか。

お松囃子です。これは少なくなってきましたから、もうちょっと広げないといけない。その点、金沢はやっぱり同じ武家文化を持っているんですが、あそこは味噌蔵町小学校でしたか。あそこは小学校をあげて卒業式に囃子をする。高学年はそれをやるんだと言っている。要するに今、三木小学校はジャズで売っていくのと同じように、味噌蔵町小学校は能を演ずるんですね。能というか踊りよりも囃子をするんですが、これが小学校6年生の卒業通過儀礼みたいなもんです。本当を言うと、錦城小学校か錦城東小学校がそれをやってほしいんですけど。

上田委員長  
旭教育長

小さい頃に錦城小学校に能舞台を作って、父親と何回も見に行きました。

田嶋課長が言われるには、加賀市は能面とか能衣装がいっぱい残っているんだそうです。それを反対に金沢の能楽堂に貸しているんだそうです。そういうことすら知らないんですね。我々はそのくらいの文化を持っている地域なんだということを、こういう敷地物狂をきっかけにして再度郷土を見直すと

： いうことに繋がりたいというのが狙いです。山中節のDVDも大事ですけど、教育委員会としては次なるターゲットになるだろうと思います。

上田委員長 わかりました。勉強します。

旭教育長 いえ、感じていただければいいです。

上田委員長 では、その他ございますか。

■ その他(5) 教育文化功労者発表について

■ 〃 小松市中学校生徒発表会について

梶谷課長 資料に基づき説明

梶谷課長 よろしいですか。次回なんですけども、10月22日火曜日の午後1時半からでいかがでしょうか。大丈夫でしょうか。場所は市民会館の予定ですが、まだ確認が取れていませんので、変更がありましたらまたご連絡いたします。

上田委員長 他に何かございませんか。なければ第10回教育委員会定例会を閉会します。

： ありがとうございます。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。